

※題字揮毫＝草川薫人



平安同窓会報

発行所
平安同窓会
京都市下京区大宮通り
七条上ル御器屋町30
電話 (075) 361-4231
http://www.heian.ed.jp

編集兼発行人
同窓会事務局

印刷所
印刷
(株) 言行堂印刷

コロナ禍転じて 福と為るべく期待しましょう!

平安同窓会 会長 藤松喜久次 (昭和37年卒)



本年1月25日開催の平安閣東同窓会で、私は「今年の干支『庚子(かのえね)』の『庚』は植物の成長が一旦止まり新たな形に変化する、『子』は種が土中で発芽する瞬間、つまり生命の始まりで繁殖や発展を意味することから、今年は今までの努力が実り、新たな芽吹きと繁栄が期待される大吉の年であって、東京オリピックをはじめ数多くの飛躍的行事が予定されていることから、我が母校平安にとって素晴らしい発展が望める年になることでしょう」との祝辞をいたしました。

処がその翌月2月中旬辺りから、誠に忌まわしい新型コロナウイルス感染者が顕在化、3月からは学校閉鎖、また東京オリピックも延期、4月から安倍総理は「緊急事態宣言」発出、殆ど全ての国民の生活と企業活動停止という、前代未聞の国難が襲来、5月には同宣言が解除され一旦は感染者が減じたものの、6月からは経済も大事と企業活動が徐々に再開されるにつれ、首都圏と大阪の若者を中心に感染者が再び増加、8月になつてからは最早世代と地域を問わず全国的に感染者拡大、本原稿を提出した8月31日現在、一部専門家による「感染者ピークは過ぎた」発言はあったものの、この厄介なコロナ禍の終息時期の見通しは立

たず、唯一天才棋士藤井聡太君の二冠獲得の明るい話題以外は、日本中が全くの暗澹たる閉塞状況にあります。因みに、この半年間に私の身近で起きたコロナ禍は、幸い自身の感染こそ免れてはいるものの、全ては3密回避の為に身内の葬儀が十分な形で行えず、喜寿を機会に企画した小学校のクラス会、私の活動中心の地域福祉、老人クラブ等の恒例行事が悉く中止せざるを得なかったこと、また母校平安の卒業式、入学式が何れも簡素化で出席が叶わず、当会にとって大切な例年11月中旬開催予定の理事会・総会も、本年は懇親会抜きで実施せざるを得ないこと等々、何れも苦渋の決断を伴う自粛・我慢の連続であるだけに誠に辛い、空しい半年間でありました。

そして何より、当会の皆さんが心待ちされていた母校平安高硬式野球部の京都府予選及び夏の甲子園全国大会が中止されたことは、何より残念でした。

ただ夏の甲子園大会中止はご承知の通り何も今回が初めてではなく、1918年の米騒動と1941年から1945年迄の太平洋戦争中は中止されました。

ただ1942年8月、後に「幻の甲子園」と言われた文部省主催の全国大会が甲子園で行われ、剛速球富樫投手を擁する母校旧制平安中学は惜しくも準優勝に甘んじましたが、同大会は飽くまで「戦意発揚」を目的に大会進行は軍

社)をお読みになつた方も居られるかと思えます。原田現監督は母校平安高の硬式野球部の全くの低迷時に監督を引き受けられ、同監督が「日本の平安ファンであり続ける」為に奮闘努力の末、見事に名門復活を果たされた「平安の強さ」の神髄・ノウハウを著名なスポーツライター田尻氏が同監督に克明な密着取材に基づいて著されたものです。昨年のセンバツ以来約1年、母校平安は甲子園から遠ざかりましたが、本年7月の夏の甲子園京都府予選に代わる「夏季京都府高等学校野球プロック大会」ではAプロック優勝を果たしており今の処、開催可否かの予断は許されませんが、原田監督のもと秋の京都大会、近畿大会、そして来年のセンバツ出場目指して必ずや朗報を聞かせてくれるものと信じております。

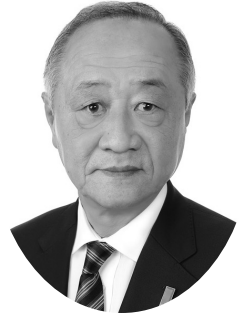
昔から「災い転じて福と為す」或いは「暗雲の上には青空あり」、また「ピンチはチャンス」とも言われますが、現在のコロナ禍は日本、いや世界中の人々にとって文字通り大きい「災い(禍)」であることは確かながら、このコロナ禍によって今まで見えなかった国民生活、行政、医療、企業等の有り様の根本的課題が次々と明らかになったのも事実であり、私ども国民はこれら予測不能な国難の数々にジッと耐えてきた報いとして、そして丁度本原稿作成の三日前に歴代最長在任期間を超えられた安倍総理が突如持病再発のため辞職される大ハプニングも生じましたが、これも一つの変革の兆しとも考えられ、必ずやこの国難は今後漸次改善され、私が冒頭に紹介した今年の干支「庚子」、即ち「今までの努力が実り、新たな芽吹きと繁栄が期待される大吉の年」の通りになるように強く期待されます。

同窓会会員の皆さまにはますますご清祥のことと拝察しお慶び申し上げます。平素よ本校の教育活動に多大のご理解とご協力を賜り、ご支援とご指導をいただいておりますこと、誠にありがとうございます。御礼申し上げます。

本当に大変な時代になりました。言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症(COVID19)の拡大です。全く異例の事ですが、本年度4月・5月は、完全に正規の教育活動を停止して、臨時休校の措置をとりました。先の世界大戦中でもこれほど長期に、全国一斉に学校が閉鎖された事はなかったことと思われま

With CORONA の時代を生きる

龍谷大学付属平安高等学校・中学校 校長 関目 六左衛門



耐えられません。

ひとつの手段として、本校ホームページ上の「校長ブログ」を活用することを思いつきました。休校期間中、生徒の皆さんには朝夕の体温測定、励行を義務づけたのですが、簡単なことのように毎日の励行となると、そう易しいことではありません。校長の私が、毎日、ブログ上で体温を発表することで、生徒の皆さんの意識喚起に結びつけようとしたわけですが、さらに、私の日常の様子や「思い」も紹介することで、ブログを通じて龍谷平安生の自覚の維持と高揚につなげようともしました。

次は、ホームページに掲載した「校長ブログ」の一部です。

お元気ですか?
2020/4/18

2020年4月18日(土)10時31分
龍谷大学付属平安高等学校・中学校の生徒の皆さん、遅くなりましたがおはようございます。(現在18日午前10時33分) お元気ですか? 体調に異常はありませんか? 体温を、朝夕、計っていますか? 私の今朝の体温は36.4度、先ずはひと安心です。体温が少し上がったようですが、今日は自宅での検温、体温計が変わったことが原因かもネ!

緊急事態宣言が出て、京都も今日から休業要請が発出されたようです。今日・明日の二日間、いつにもまして外出を控えてください。Stay HOME! 感染予防の大原則です。テレビのニュースや特別番組を見ていますと、「コロナいじめ」とか「コロナ差別」といった信じられない言葉が出てきます。医療の最前線で大活躍の医師や看護師さんなどの医療従事者の方々がタクシーへの乗車を拒否されたり、子供さんの保育園への通園を断られたりしていることと、わが身を顧みず、命がけて患者さんの治療に献身にお勤めの方々に対する無慈悲な人間性を疑うような行為です。確かにこの感染症に対する恐怖は日に日に高まり、いつ誰が感染するかも知れない現況です。だからといって非科学的で非人間的な態度をとって、他者を排除・排斥することは決して許されることではありません。

龍谷平安には「三つの大切」の教えがあります。「ことばを大切に!」「じかんを大切に!」「いのちを大切に!」です。わたしたちはすべて仏さまから「救ってやるゾー」と願われた存在です。その人間同士、交わす言葉、取り合う行為は、最大限の尊敬と感謝に満ちたものであらねばなりません。もう一度「三つの大切」をしつかりとかみし

るべきです。原田現監督は母校平安高の硬式野球部の全くの低迷時に監督を引き受けられ、同監督が「日本の平安ファンであり続ける」為に奮闘努力の末、見事に名門復活を果たされた「平安の強さ」の神髄・ノウハウを著名なスポーツライター田尻氏が同監督に克明な密着取材に基づいて著されたものです。昨年のセンバツ以来約1年、母校平安は甲子園から遠ざかりましたが、本年7月の夏の甲子園京都府予選に代わる「夏季京都府高等学校野球プロック大会」ではAプロック優勝を果たしており今の処、開催可否かの予断は許されませんが、原田監督のもと秋の京都大会、近畿大会、そして来年のセンバツ出場目指して必ずや朗報を聞かせてくれるものと信じております。

昔から「災い転じて福と為す」或いは「暗雲の上には青空あり」、また「ピンチはチャンス」とも言われますが、現在のコロナ禍は日本、いや世界中の人々にとって文字通り大きい「災い(禍)」であることは確かながら、このコロナ禍によって今まで見えなかった国民生活、行政、医療、企業等の有り様の根本的課題が次々と明らかになったのも事実であり、私ども国民はこれら予測不能な国難の数々にジッと耐えてきた報いとして、そして丁度本原稿作成の三日前に歴代最長在任期間を超えられた安倍総理が突如持病再発のため辞職される大ハプニングも生じましたが、これも一つの変革の兆しとも考えられ、必ずやこの国難は今後漸次改善され、私が冒頭に紹介した今年の干支「庚子」、即ち「今までの努力が実り、新たな芽吹きと繁栄が期待される大吉の年」の通りになるように強く期待されます。

めましよう。「いのちを大切に！」命は仏さまからいただいたもの、決して決しておろそかにしてはいけません。

お元気ですか？
2020年5月19日(火)
7時54分

龍谷大学付属平安高等学校・中学校の生徒の皆さん、おはようございます。(現在19日午前8時)お元気ですか？体調に異常はありませんか？体温を、朝夕、計っていますか？私の今朝の体温は、35.6度、

先ずはひと安心です。5月10日にも紹介した、白血病からの復活を目指す競泳女子の池江璃花子さん(19)が、18日、「今日、初めてこの姿をお見せします」とのメッセージとともにインスタグラムとツイッターで手紙および写真を公開しました。その姿は超短髪のものでした。もちろん短髪と言っても、競泳のために短く刈り込んだものではなく、白血

恐れのない日が一日でも早く来ますように。そんなトネルにも必ず出口はあります。みんなで乗り越えていきましょう」と言うのです。

「利他」とは、将にこのことではないでしょうか!? かつて一大会で六冠にも輝いた池江選手、まだ大学に入ったばかりの年頃ですが、競泳界のみならず、この困難に満ちた世界においても、すでに人的に王者としての風格が漂っています。垣間見える 恥じらいもまた彼女の大きな魅力です。

おかげさまで6月1日の学校再開以来二ヶ月、未だ感染者が出たとの情報は寄せられていません(今後はどのような事態になるか、全く予断は許せませんが…)。龍谷平安の生徒は、本当に頑張っています。特に最終学年の高校3年生は、集大成ともなったであろう全国大会も中止になり、卒業に向けて不安だけの毎日

寄稿



今だからこそ



元プロ野球選手
(阪神タイガース)
松山進次郎
(昭和63年卒)

龍谷大学付属平安高等学校卒業生の皆様、88年卒業の松山進次郎と申します。

おかげさまで6月1日の学校再開以来二ヶ月、未だ感染者が出たとの情報は寄せられていません(今後はどのような事態になるか、全く予断は許せませんが…)。龍谷平安の生徒は、本当に頑張っています。特に最終学年の高校3年生は、集大成ともなったであろう全国大会も中止になり、卒業に向けて不安だけの毎日

いける小学校時代でした。今の時代にはそぐわないかもしれませんが、非常に厳格な父でした。父は私たちに「野球といえば平安、平安といえば野球」と、私たち兄弟によく言っていました。京都で「野球の名門」といえば平安高校だったのです。そのこともあって、私は中学から平安に入學することになりました。兄弟そろって甲子園出場という夢が父にはあったのです。

野球好きの父と2つ年上の兄の影響で、少年野球チームに通っていた兄の背中を追って野球をはじめたのがきっかけでした。ピッチャーだった兄を父が指導する。私はキャッチャー役で父に言われるがまま兄の投げたボールを黙々と受けていました。決められた球数を投げ終わると、父が兄に「走れ！」と号令。一瞬おいて、私と父の目が合う。「お前も一緒に走らんか！」と言われ、兄の背中を必死に追

と告げられる。時間が遅いからといって練習時間が短縮されることはなく、深夜の静寂にバッティングの音が鳴り響いたのです。今から思うと防音対策をしてい

と告げられる。時間が遅いからといって練習時間が短縮されることはなく、深夜の静寂にバッティングの音が鳴り響いたのです。今から思うと防音対策をしてい

その後、兄はケガが重なり野球から離れてしまいました。そのこともあって、父の野球への情熱は、私に注がれることになりました。野球部での練習に加え自宅での練習、朝夕野球漬けの日々を送り、そして迎えた3年生の夏、厳しい練習を共に耐えた仲間たちと挑んだ京都府予選の1回戦。洛星高校に0-1で見事に

その後、兄はケガが重なり野球から離れてしまいました。そのこともあって、父の野球への情熱は、私に注がれることになりました。野球部での練習に加え自宅での練習、朝夕野球漬けの日々を送り、そして迎えた3年生の夏、厳しい練習を共に耐えた仲間たちと挑んだ京都府予選の1回戦。洛星高校に0-1で見事に

生活でさえ成り立たないことが見えてきて、自利他という考え方やあり方が重要になってくると感じています。私はプロ野球を通して社会勉強をしてきましたが、2003年、2005年のリーグ優勝をしたシーズンは、自己犠牲という精神がチーム内にありました。1点を獲るために自分は何をしなければならぬか。相手ピッチャーに多くの球数を投げさせる、自分はアウトになってもランナーを

生活でさえ成り立たないことが見えてきて、自利他という考え方やあり方が重要になってくると感じています。私はプロ野球を通して社会勉強をしてきましたが、2003年、2005年のリーグ優勝をしたシーズンは、自己犠牲という精神がチーム内にありました。1点を獲るために自分は何をしなければならぬか。相手ピッチャーに多くの球数を投げさせる、自分はアウトになってもランナーを

オールスポーツ用品・体育機器全般

株式会社 スポーツアクト
ALL SPORTING GOODS

〒603-8331 京都市北区大將軍西町157-2
TEL (075) 463-6556
FAX (075) 465-6933

トンボ学生服

COMME ÇA
School Label

トンボスポーツウェア

株式会社 トンボ 大阪支店
〒540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町2丁目1-1
TEL (06)6942-5551 FAX (06)6942-5549
【本社】 岡山県岡山市北区厚生町2丁目2番9号

株式会社

言行堂印刷

京都市下京区壬生川通花屋町上ル
〒600-8821 TEL (075) 351-7063